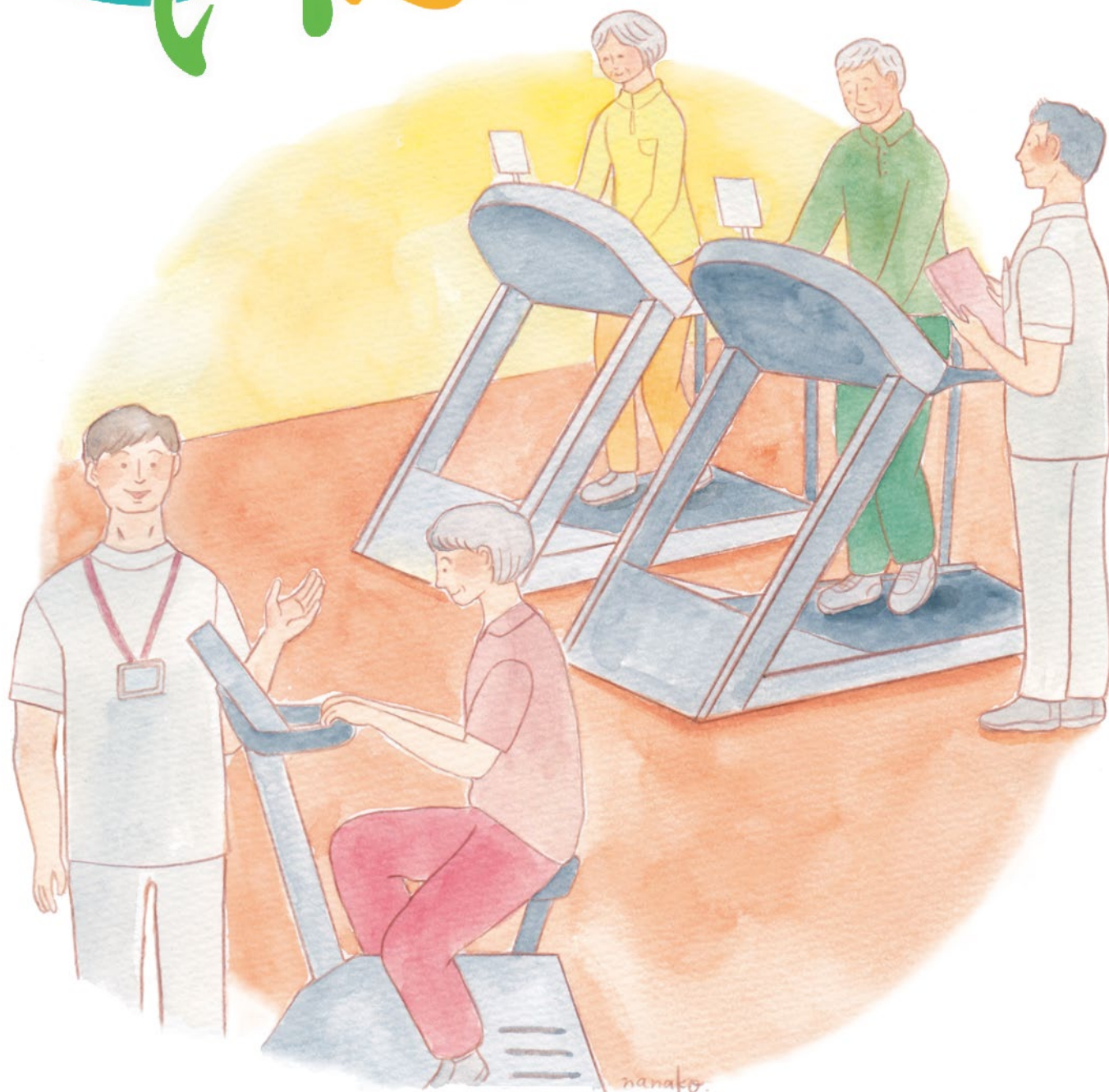


らふ

松下記念病院

Vol.45

春号
2019



診療科
見学note

脳神経内科

● MATSUSHITA REPORT
医療安全管理室
感染制御室

● ホストピ
心臓リハビリテーション

● news
防災センター

● ボランティア活動
イベント年間スケジュール

● みんなで学ぼう！
セミナー・講習会

脳神経内科とは・・・

脳・脊髄・末梢神経・筋の4臓器の内科系疾患を担当するのが脳神経内科です。

患者さまとのお話のあと、頭から足の先まで時間をかけて診察いたします。必要に応じて、血液検査や画像検査・神経生理検査を受けていただきます。また薬物療法・理学療法・生活指導などを通じて、患者さまがよりよい生活を送れるよう努めています。

検査の結果、外科的治療が必要な場合には、脳神経外科や整形外科などにご紹介しています。

脳神経内科の主な病気は・・・

片頭痛、脳梗塞、認知症、パーキンソン病などの神経難病があります。

脳神経内科の受診をおすすめする症状は・・・

「頭痛」「めまい」「しびれ」

「力が入らない」「もの忘れ」

などの自覚がある場合は、当科の受診をおすすめします。お困りの症状があれば、遠慮なくご相談ください。

今回は、社会の超高齢化により最近増えている「パーキンソン病」の話をします。

「パーキンソン病」とは・・・

パーキンソン病は、脳深部にある中脳の神経細胞が徐々に変性・脱落し、ドパミンという神経伝達物質が不足することによってさまざまな運動症状を生じる疾患です。

パーキンソン病の4大徴候



①動作がおそくなる、②手足がふるえる、③筋肉がかたくなる、④姿勢（保持）障害や歩行障害（前かがみ・小股で歩く）などの症状が徐々にあらわれます。中高年以降に発症することが多く、わが国での有病率は10万人あたり150人と、もっとも頻度の高い神経難病です。

パーキンソン病は、神経細胞に「 α シヌクレイン」という蛋白が蓄積することが特徴ですが、残念ながら、現時点で根本的治療法はありません。しかし、薬物治療によって不足しているドパミンを補ったり、ドパミンの分解を抑えたりして、歩行障害やふるえを改善し、生活を維持することができます。ある程度の重症の方は、指定難病として公費による補助を受けることが可能です。

「パーキンソン病」の診断と検査

パーキンソン病では脳MRI検査では異常を認めません。これまでは問診と神経内科専門医による診察のみで臨床診断を行っていました。近年では、核医学検査で、個体内での分子の動きを見る(=分子イメージング)ことによって精度の高い診断が可能になっています。

問診

症状の経過を中心に、経験豊富な神経内科専門医が薬物内服歴や嗅覚障害、便秘、その他の症状の有無について問診を行います。

神経学的診察

問診で予想された神経系の異常を確認するため、ハンマー・音叉などの診察道具を用いて十分な時間をかけて実施します。神経内科専門医は、神経学的診察についてトレーニングを積んでいます。

画像検査

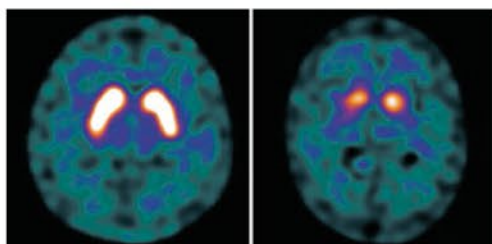
頭部MRIは、パーキンソン病以外の類似疾患の除外のために行います。

脳血管性パーキンソン症候群・多系統萎縮症・進行性核上性麻痺・正常圧水頭症などの疾患が診断できます。

「見える」
ようになった
パーキンソン病

分子イメージングについて

近年は、核医学検査による分子イメージングによってパーキンソン病が視覚化できるようになってきました。松下記念病院では、これらの検査を行うことが可能です。

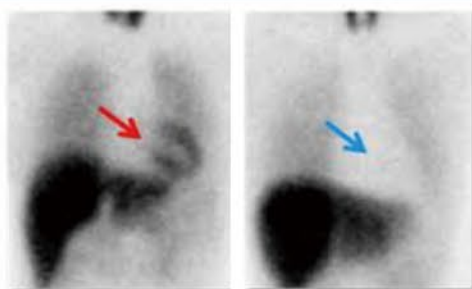


正 常

パーキンソン病

DATスキャン (ドパミントランスポーターシンチグラフィ)

線条体でのドパミン取り込みを行う分子のイメージングです。パーキンソン病では、線条体のうち、被殻といわれる部位での集積が低下します。



正 常

パーキンソン病

MIBG心筋シンチグラフィ

パーキンソン病では早期から心臓交感神経が障害され、MIBGという検査薬の心臓への集積が低下します。その他のパーキンソン症候群では低下しませんので、区別するのにたいへん有用です。

パーキンソン病の治療

パーキンソン病で不足しているドパミンを補充したり、ドパミンの分解を抑制する内服治療が、基本になります。患者さまの症状や年齢、パーキンソン病の病期、合併症によって、治療薬の選択は異なります。それぞれ個人に合わせた治療法の提案をし、磁気刺激治療などの外科的治療適応がある患者さまについては、より適切な治療を受けることができる病院へのご紹介も可能です。進行期の患者さまでも、薬剤調整やリハビリテーションなどを実施することで日常生活動作や生活の質の改善が期待できます。

医療安全管理室

安全な医療の提供のため院内での様々な取り組みを中心となって行う部署です。



医療安全管理って何？

安全な医療の提供は患者サービスの基本であり、患者中心の医療を推進するうえで大切なことです。医療安全管理室には、患者さまの安全を確保し、医療事故を未然に防ぐ、また、起こった場合の対応、再発防止のための努力が求められています。

病院では、医療スタッフのささいな不注意等が、医療上予期しない状況や、望ましくない事態を引き起こすことがあります。

当院では、個人レベルでの事故防止対策と、医療施設全体の組織的な事故防止対策の二つの対策を進め、医療事故の発生を未然に防ぎ、患者さまが安心して安全な医療を受けられる環境を整えることをめざしています。

医師、看護師、メディカルスタッフ等の多職種で構成される医療安全委員会が設置され、医療事故、インシデント等が報告され、その分析を基にした改善策が実施される体制を整えています。

医療安全管理室って何をしているの？



医療安全研修会

- ① 医療事故防止のため日々起こるさまざまな事故報告を収集し、事故調査の実施
- ② 事故内容に応じて防止対策を講じて、次の事故や大きな医療事故の防止につなげる活動内容

活動内容

- 専従の看護師を医療安全管理者として配置
- 患者誤認防止を含め医療事故を防止するためのルールやマニュアルを作成し内容を共有
- 各部署での医療安全カンファレンスへの参加
- 医療安全に関係した研修会の企画や運営
- 転倒転落などの院内ラウンド実施
- 院内急変患者のシミュレーションの開催
- 患者さまの相談窓口（医療に関わる内容）
- 地域施設との医療安全の連携相互ラウンド
- 職員の医療安全に関する相談や対応 等



急変シミュレーション

医療安全管理室では患者さまの安全はもちろん、職員が安心して仕事ができるように調整し環境を整えることを大切に日々の取り組みを行っています。

感染制御室

患者さまやご家族、そして職員を感染の危険性から守るために中心となって活動する部署です。

そもそも

感染防止対策の部門は何故必要なの？

病院に関する報道でこのような事を耳にしたことはないでしょうか。“インフルエンザや結核の集団感染が発生した”“薬の効かない菌が増えている”

病院には感染症で患者さまが治療に来院されます。多くの薬に耐性のある菌が増えており、抗菌薬(抗生物質)も慎重に使わないといけな時代になっています。一方で、患者さまには、高齢の方が増加し、糖尿病などの持病を抱えつつ、がんなどの治療を受けている方がたくさんいらっしゃいます。治療もどんどん高度化しており、一見健康そうな人にも弱い菌で容易に感染する可能性があります。患者－患者間、病院職員－患者間で感染が拡大しないように、病院では患者さまやご家族のみならず、職員、学生など病院に関わる全ての人を院内感染から守る必要があります。

これらの環境をより整備し、安全で質の高い医療サービスを提供するために、感染制御室は医療安全管理部門から独立して2018年4月に設立されました。

では、

どのような人が主に働いているの？

感染の原因を特定するために微生物検査を行い、確定した原因に応じて薬を選択し治療します。また、感染の拡がり方を予想し(感染経路の把握)対応します。感染に関する専門知識を有する医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師で構成される感染対策チーム(Infection Control Team: ICT)が核となり活動しています。

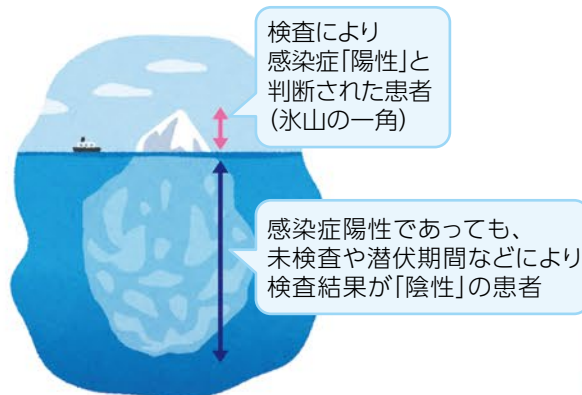


カルテラウンド



感染症が分かってから活動するの？

感染症が分かっているのは、あくまでも検査で陽性になった場合のみで、よく『氷山の一角』に例えられます。全ての患者さまを対象に感染が分からない段階から、日常的に感染予防対策を行う必要があります。専門的な表現になりますが『標準予防策』といい、そのひとつが手指衛生(手洗いや手指消毒)であり、防護用具(マスク・エプロン・手袋等)を着用することなど職員教育への活動を大切にしています。



私たちは院内感染が発生した時の迅速な対応のみならず、**院内感染拡大の兆候をいち早く察知**するための監視活動、継続的な予防対策を行っています。最近では近隣地域の施設とも連携(現在6病院)し、情報交換や研修を合同で行うことで、感染対策の強化に取り組んでいます。

心疾患に罹患後の予後を改善する心臓リハビリ



2014年6月に開始

昨年は5,000件以上の実績

心臓リハビリは、急性心筋梗塞からの社会復帰を実現する短期的な介入プログラムとして開始されました。その後心臓リハビリが長期予後の改善に寄与することが判明したため、現在では急性心筋梗塞以外にも心不全や下肢閉塞性動脈硬化症などに適応が拡大されています。



心臓リハビリは長く継続することがなによりも大切です。楽しく参加できるよう、患者さまとの積極的なコミュニケーションや関連書籍の無料貸し出しなど様々な工夫を行っています。

また質の高い心臓リハビリを提供するため、心肺運動負荷試験による運動処方に準じた監視下集団運動や各種筋力の評価とそれに応じた筋肉に負荷をかけて行うトレーニングの導入なども心がけています。

心不全のパンデミックに備えた心臓リハビリ外来を開設

～2019年1月からかかりつけ医の患者さまにも門戸開放～

超高齢化社会を迎え、心不全患者さまが大幅に増加（心不全パンデミック）することが懸念され、その備えが喫緊の課題となっています。

心臓リハビリは心疾患に罹患後に必須の包括プログラムですが、その普及は未だ十分とは言えず、特に心不全領域での遅れが目立ちます。当院では、心不全の患者さまにも積極的に心臓リハビリを行ってきましたが、対象は当院に入院中もしくは外来通院中の患者さまに限られていました。そこで、2019年1月から、かかりつけ医の先生方の心不全患者さまにも門戸を開放しました。同時に開設した心臓リハビリ外来はリハビリ室に併設され、直接紹介が可能です。

松下記念病院
心臓リハビリテーション

心不全と暮らす

心臓リハビリテーション概要

費用	自己負担額(3割負担): 1回約1,800円 自己負担額(1割負担): 1回約600円 ※状況や保険により異なる場合があります					
実施日時	リハビリ 時間	月	火	水	木	金
	10:00～ 11:00～	11:00～ 12:00～	12:00～ 13:00～	13:00～ 14:00～	14:00～ 15:00～	
所要時間	1回約1時間					
実施場所	松下記念病院 リハビリテーション室					
来院頻度	週1回					



心臓リハビリ
川崎達也・橋本伸吾

加齢と共に運動機能の低下や筋力低下を起こすことで、転倒や骨折・寝たきりなど日常生活の質が低下しやすくなります。これらの予防・改善にも心臓リハビリは最適で、年齢制限もなく運動が苦手な方にも支障なく導入できます。

当院の心臓リハビリが、地域の循環器診療に広く貢献できるようチーム全員一丸となって頑張っていきます。

防災センター

～患者さまやご家族および職員等の安全確保を一番に考えています～



防災センターとは・・・

病院1階時間外出入口に設置、365日24時間体制で総員7名・常勤3名の警備員が勤務、病院の災害・事件・事故等の発生を未然に防ぎ、火災や地震等の災害発生時には患者さまおよび職員等の安全を確保することに努めています。

警備員は・・・

- 上級救命士
 - 施設検定 2級
 - 指導教育責任者 1号～4号
 - 交通誘導検定
 - セキュリティプランナー
 - 防火管理者
- の資格をもっています。



警備員の業務として・・・

基盤監視

防災センター内で各種防災設備・防犯警備装置・防犯カメラ等の監視業務を常に行い、異常が発生した場合、速やかに対応します

巡回

院内および外周の定期巡回業務、駐車場の誘導整備案内を行っています
また夜間の電灯消灯・窓閉・ドア施錠の点検をします

緊急対応・通報

危険性のある来院者や危険物の発見等、緊急時には現場に駆けつけて対処します
また、緊急患者等、生命に関わり即座に他の医師・看護師の対応が必要な場合には緊急通報等を行います

来院受付

休日、来院者の案内や出入り業者の受付、救急車・急患の受入れの対応をします

拾得物預かり

落とし物があれば、一時お預かりします

その他

施設内の火災等の監視と消防設備の制御を行う管理施設も兼ねているため、

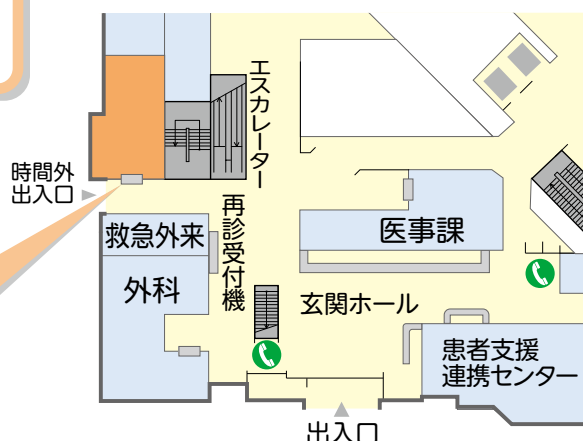
- 火災報知器等からの発報を受ける
- 消防用ポンプの監視、防火扉の遠隔操作
- 通信、非常放送設備

等、対応しています



防災センター

落とし物・忘れ物は
こちらへ



桂福点の
ほんわか寄席

NHK「バリバラ」ご出演
全盲の落語家 桂福点さんの
話芸をご覧くださいませ！

参加費
無料です。

コンサート

地元出身のプロ歌手が
生歌を披露いたします！

松下記念病院では通院・入院患者さま、および
近隣にお住まいの方に対するホスピタリティ向上の
ため、年に数回ホスピタリティ委員会が主催する
イベントを開催しています。

ケアリングクラウン
トンちゃん一座の訪問

(入院患者さま向け)

・・・年間スケジュール・・・

5 月初旬 桂福点のほんわか寄席

7 月初旬 セタコンサート

11月中旬 桂福点のほんわか寄席

12月中旬 クリスマスコンサート

※日程は近々にホームページ・病院内のポスター
にてご確認ください。

お問合せ先

松下記念病院ボランティア担当 木村 / Tel. 06-6992-1231 (代表)

イベントと一緒に
盛り上げてくださる
ボランティアも
募集しています！

みんなで
学ぼう！

今後のセミナー・
講演会の予定

松下記念病院では、地域住民みなさまの健康
づくり支援を目的として「市民健康セミナー」「市民
公開講座」など啓発活動に取り組んでいます。

第40回 市民健康セミナー

日 時

2019年 3月16日(土)
13:30～(13:00 受付開始)

場 所

松下記念病院 2 階 講義室

テーマ

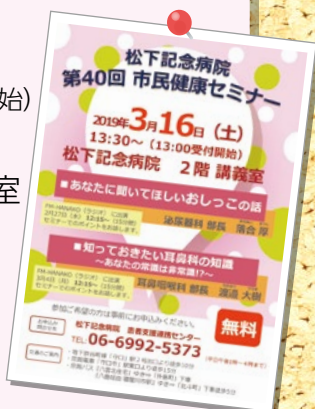
〈 泌尿器科 〉

あなたに聞いてほしい
おしっこの話

〈 耳鼻咽喉科 〉

知っておきたい耳鼻科の知識

～あなたの常識は非常識～



市民公開講座

日 時

2019年 5月18日(土)
14:00～16:00 (13:30 受付開始)

場 所

守口市南部エリア
コミュニティセンター

テーマ

認知症と正しく向きあう
～認知症の基礎知識～

